

林野庁 近畿中国森林管理局
箕面森林ふれあい推進センター

令和6年度 年報



カブトムシ里親まつり (R6. 10 撮影)



はじめに

全国の森林面積の約3割を占める国有林を管轄している林野庁では、全国に9箇所の森林ふれあい推進センターを設置しています。森林ふれあい推進センターでは、それぞれの地域の特徴を活かし、国有林野を活用して NPO 団体等が行う自然再生活動及び生物の多様性の保全活動、学校及び NPO 団体等が行う森林環境教育等に対して、技術的な指導や情報の提供等の支援を行っています。

箕面森林ふれあい推進センターでは、都市部に隣接し、観光や野外活動などのレクリエーション利用が多いといった箕面国有林の特徴を活かして、地域の NPO 団体や教育機関と連携した森林環境教育（森林 ESD）、里山再生、森林の獣害対策など地域の課題解決に向けた多様な活動を行っています。これらの活動は、私たちと一緒に取り組んでいただいている皆様、活動に参加していただいた皆様のご支援があってこそ継続できているものであります。皆様のご理解とご協力に心から感謝申し上げますとともに、今後も引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、コロナ禍以降「箕面体験学習の森」では、長らく子供たちの声が聞かれなくなりましたが、11 月には3年振りに「森の探検隊」を実施することが出来ました。

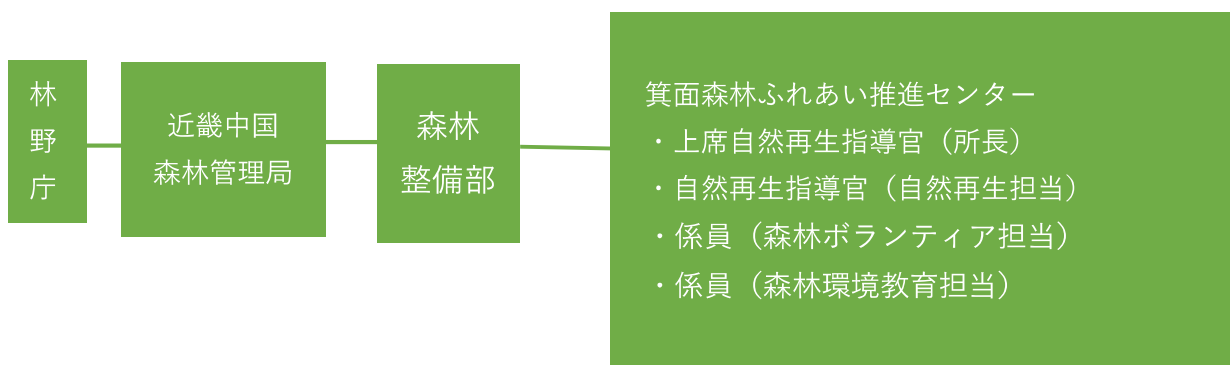
現在の当センター職員で実施するのは初めてでもあったことから、時間配分など全て思い通りとはいきませんでしたが、それでも参加した子供達の活気のある声や、満足してくれたという感想を聞くことができ、私たちも感激した次第です。

これからも引き続き関係者の皆様のご協力を得ながら取り組んでまいりますので、当センターの活動に対し、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

令和7年3月

箕面森林ふれあい推進センター所長 岩本 英世

組織概要



目次

はじめに
組織の概要

I 自然再生の取組

- | | |
|----------------------------|---|
| 1 「箕面体験学習の森」の取組について | 1 |
| (1) 目的 | |
| (2) 親しみやすい森林を目指した協働での森林整備 | |
| (3) 現況把握のための継続調査 | |
| (4) 生物多様性保全に向けた取組 | |
| (5) 「箕面体験学習の森」育成・活用事業検討委員会 | |
| ① 第1回検討委員会 | |
| ② 第2回検討委員会 | |
| 2 箕面国有林におけるニホンジカ被害対策 | 4 |
| (1) 目的 | |
| (2) 事業内容 | |
| ① シカ捕獲等事業 | |
| ② モニタリング調査 | |

II 森林環境教育の取組

- | | |
|-------------------------|----|
| 1 森林環境教育プログラム | 12 |
| (1) 森の探検隊 | |
| (2) モデルコースの拡充 | |
| ① 百人一首コース | |
| ② 教科書にのっている植物コース | |
| 2 森林環境教育用教材の活用・配布 | 15 |
| (1) 創作紙芝居・絵本を活用した森林環境教育 | |
| (2) 森林環境教育手引書（小学校編）の活用 | |
| 3 森林環境教育の実践 | 17 |
| (1) 国有林内での教育活動 | |
| ① 都島中学校「職場体験」 | |
| ② 東能勢小学校「森の探検隊」 | |
| (2) 出前授業 | |
| ① YMCA 学院高等学校 | |
| ② 新森小路小学校 | |
-

目次

III 森林・林業・木材利用に関する広報・普及活動

1	森林とのふれあいを目指した取組	19
	(1) 森林ふれあい推進事業	
	① カブトムシ里親まつり	
	② 森林セラピー体験	
2	冊子活用状況	21
3	情報発信	23
	(1) 活動紹介「森林（もり）のギャラリー」	
	(2) こだま通信	
	(3) 近畿中国森林管理局広報誌「森のひろば」 No.1184 令和6年11月号	

IV その他

1	運営推進懇談会（箕面森林ふれあい推進センター）	27
	(1) 趣旨	
	(2) 検討事項	
	(3) 懇談会委員	
	(4) 令和6年度運営推進懇談会実施概要	
2	取組一覧・連携一覧	28
	(1) 森林環境教育関係	
	(2) シカ被害対策関係	
	(3) 地域等との協働	
3	令和6年度 箕面森林ふれあい推進センター職員名簿 (令和7年3月31日現在)	32

1 「箕面体験学習の森」の取組について

(1) 目 的

箕面国有林（箕面市）を含む北摂地域は、かつて「池田炭（菊炭）」を生産するために「台場クヌギ」を育成するなど、昔から身近な山林として多くの方に利用されてきました。また、生物多様性の豊かな森林が広がっているため、「日本三大昆虫生息地（高尾山（東京都）・貴船山（京都府）・箕面山（大阪府））」として親しまれていました。しかし、戦後に拡大造林が行われ、現在ではスギ・ヒノキなどの人工林が大半を占める森林となっています。

そこで当センターでは、平成 16 年から各地における里山保全活動に活用していただけるよう、この箕面国有林をモデルとして「里山再生推進モデル事業」に取り組み、「里山再生ガイドライン」を作成いたしました。平成 20 年 5 月には「箕面体験学習の森」整備方針を策定し、「散策、体験、学習」が手軽に楽しむことのできる森林（箕面らしい里山）を目指して整備を進めてきました。平成 28 年度からは「箕面体験学習の森」育成・活用事業に名称を変更し、森林環境教育のフィールドとしての更なる工夫や、森林の魅力を伝えられるよう、様々な取組に着手して



【写真-3 展望台周辺の現在の様子】



【写真-1 池田炭（菊炭）】



【写真-2 人工伐採後の状況】

います。特に、「エキスポ'90 記念の森」展望台周辺では、落葉広葉樹林へ転換するプロジェクト「オオクワガタの棲（す）める森づくり」を地域の方々との協働で進めています。

私たちは、引き続き、この「箕面体験学習の森」をフィールドに地域と連携しつつ、身近な森林として様々な皆様に活用していただける森林を目指した取組を進めていくこととしています。

(2) 親しみやすい森林を目指した協働での森林整備

「ふれあいの森」協定相手方の日本森林ボランティア協会により、「オオクワガタの棲(す)める森づくり」箇所において、令和5年度に実施したゾーニング調査に基づく森林整備作業が行われ、11月10日のボランティア活動には兵庫県立大学 服部 保 名誉教授による植生学習会を開催、目的樹種を育成するための森林整備について講義をいただきました。

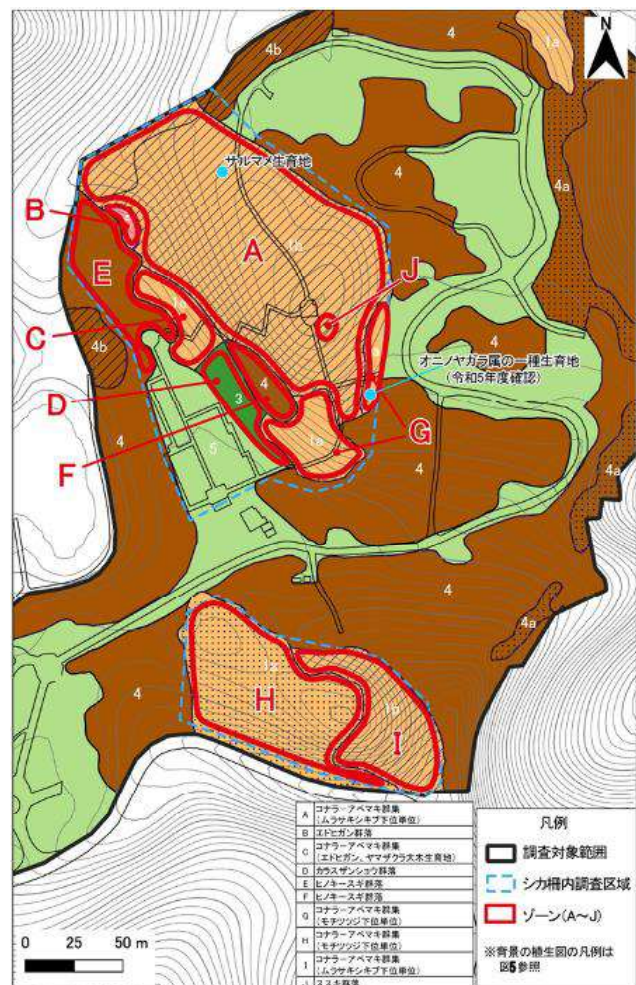


【写真-4 植生学習会の様子】

(3) 現況把握のための継続調査

植生管理ゾーニング検討業務

平成25年度から、「箕面体験学習の森」の現況とその変化を把握するために専門家による調査を実施しています。令和6年度は、株式会社「里と水辺研究所」と委託契約を締結し、これまで継続的に調査を行ってきた2プロットに加え、新たにゾーニング調査により設定された6プロットについても調査を実施しました。今後は目的樹種を育成するための森林整備を行いながらの経年変化を継続的に調査していきます。



【図-1 ゾーニング図】

(4) 生物多様性保全に向けた取組

「箕面体験学習の森」にある「花の谷（ビオトープ）」はモリアオガエルやトノサマガエル等の稀少な生物の存在が確認されており、この地域を代表する多様な生物を観察することができる場所です。一方で、その生物たちを脅かす特定外来生物のウシガエルも生息していることから、令和6年度はウシガエル 520 個体（成体 59、オタマジャクシ 461）を捕獲・駆除しました。10 月 10 日には「明治の森箕面自然休養林管理運営協議会」と連携して、地元のボランティア（4 団体、6 名）の協力を得て「ウシガエル駆除大作戦」を実施、昨年度効果のあった投網を使用していただくことにより 2 時間程で 209 個体（成体 4、オタマジャクシ 205）を捕獲・駆除しました。

今までの職員や関係団体の積極的な取り組みにより、トノサマガエルの小さい成体や水生昆虫の生息も確認することが出来ました。

今後も引き続き、貴重な生物たちの生息環境を維持していくために継続的に取り組んでいきます。



【写真-5 モリアオガエル】



【写真-6 ウシガエル駆除大作戦の様子】

(5) 「箕面体験学習の森」育成・活用事業検討委員会

① 第1回検討委員会

7 月 9 日に箕面国有林において開催し、令和6年度実施計画について検討いただきました。各委員からはコロナ禍以降、小学生を集めての実施が難しくなった「森の探検隊」などについてご意見をいただきました。

② 第2回検討委員会

2 月 14 日に箕面市立市民会館において開催し、令和6年度の実施報告を行うとともに、令和7年度の実施計画（案）について検討をしていただきました。各委員からは3年振りに開催できた「森の探検隊」については今後に繋げていくための取り組み方などのご意見をいただきました。



【写真-7 第2回検討委員会】

2 箕面国有林におけるニホンジカ被害対策

(1) 目的

箕面国有林を含む北摂地域では、ニホンジカ（以下「シカ」という。）の個体数が増加し、森林生態系への影響が顕著となったことから、平成 26 年度から地域ボランティア、大阪府、箕面市、京都大阪森林管理事務所、そして当センターで構成する「明治の森箕面自然休養林管理運営協議会」において、シカの被害防止対策を進めており、当センターでは、①シカの個体数管理として捕獲事業、②シカの生息状況及び植生の被害状況等を把握するためのモニタリング調査を実施しています。

(2) 事業内容

① シカ捕獲等事業

ア 事業内容

シカの個体数管理を目的に、わな猟（箱わな、小型囲いわな、くくりわな）による捕獲を実施しました。（捕獲期間：令和 6 年 5 月 16 日～令和 7 年 1 月 31 日）

契約相手方：一般社団法人大阪府猟友会（捕獲従事者：大阪府猟友会箕面支部）

捕獲個体の焼却処分：箕面市 市民部 環境クリーンセンター（単価契約）

イ 実施場所

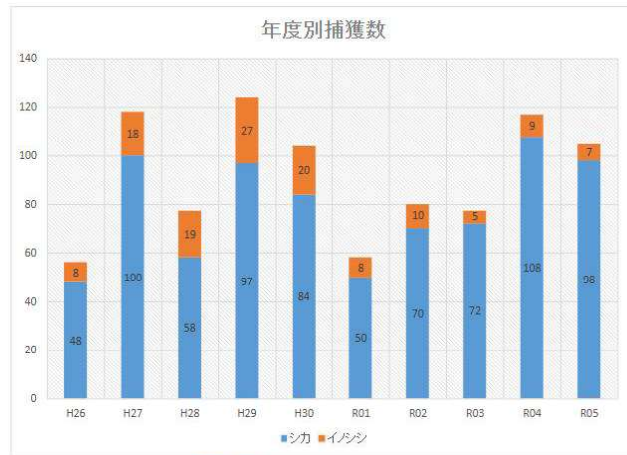
箕面国有林 267～270、272～277 林班（433.37ha）、捕獲実績：シカ 38 頭



【図-2 箕面国有林ニホンジカ捕獲等事業対象区域】

I 自然再生の取組

年度	目標	シカ	イノシシ	計
H26		48	8	56
H27	130	100	18	118
H28	120	58	19	77
H29	120	97	27	124
H30	130	84	20	104
R01	100	50	8	58
R02	90	70	10	80
R03	80	72	5	77
R04	80	108	9	117
R05	100	98	7	105
計		785	131	916

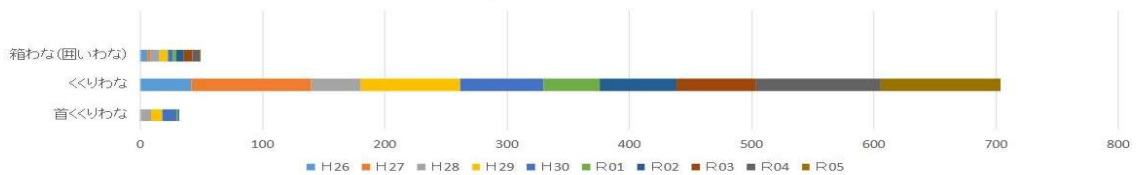


シカ捕獲頭数
年平均：78頭

【表-1 令和5年度までの捕獲実績】

わな区分	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	計
箱わな(囲いわな)	6	2	8	7	4	3	6	7	6	1	50
くくりわな	42	98	41	81	68	46	63	65	102	97	703
首くくりわな			9	9	12	1	1				32

わな別捕獲頭数



【表-2 令和5年度までのわな別シカ捕獲実績】

有害鳥獣捕獲個体の整理表

(捕獲頭数合計)											(単位:頭)
有害鳥獣別 成獣幼獣別	オス成		メス成		鹿計	オス若		メス若		捕計	合計
	成獣	幼獣	成獣	幼獣		成獣	幼獣	成獣	幼獣		
	11	0	26	1	38	4	2	5	0	11	49

(捕獲場所別捕獲頭数)											(単位:頭)
捕獲場所	オス成		メス成		鹿計	オス若		メス若		捕計	合計
	成獣	幼獣	成獣	幼獣		成獣	幼獣	成獣	幼獣		
跡尾寺跡地周辺 (270林班)	1	0	2	1	4	0	0	0	0	0	4
清水谷周辺 (268.269.272林班)	4	0	10	0	14	2	0	4	0	6	20
貫面ダム周辺 (267.273.274林班)	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1
ヨウラク台周辺 (275.276.277林班)	6	0	13	0	19	2	2	1	0	5	24
合計	11	0	26	1	38	4	2	5	0	11	49

(ワナ別捕獲頭数)											(単位:頭)
ワナ種	オス成		メス成		鹿計	オス若		メス若		捕計	合計
	成獣	幼獣	成獣	幼獣		成獣	幼獣	成獣	幼獣		
くくりワナ	10	0	25	0	35	4	2	5	0	11	46
囲いワナ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
箱ワナ	1	0	1	1	3	0	0	0	0	0	3
合計	11	0	26	1	38	4	2	5	0	11	49

捕獲目標
100頭

【表-3 令和6年度捕獲実績】

② モニタリング調査

ア 調査の目的

シカの生息状況等を把握し、効率的かつ効果的な被害の防止と野生鳥獣との共生に向けた取組に資することを目的として、箕面地域の関係機関と連携しながらモニタリング調査を行っています。

イ 調査対象地

箕面国有林 267～270、272～277 林班の調査区域内（図－2 を参照）

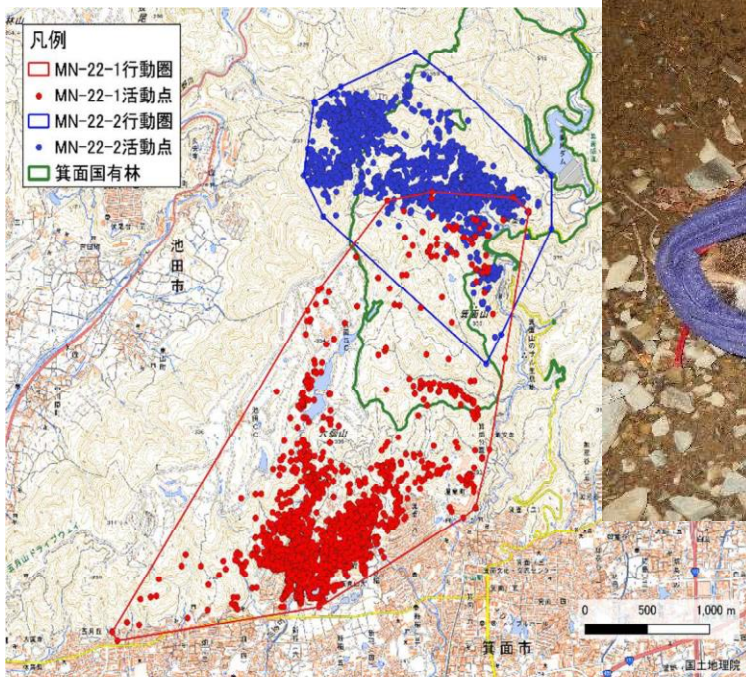
ウ 調査内容

（ア）GPS テレメトリー調査

令和4年度の委託契約で取り付けたGPS首輪（オス2頭分）の測位データを取得し分析を行いました。

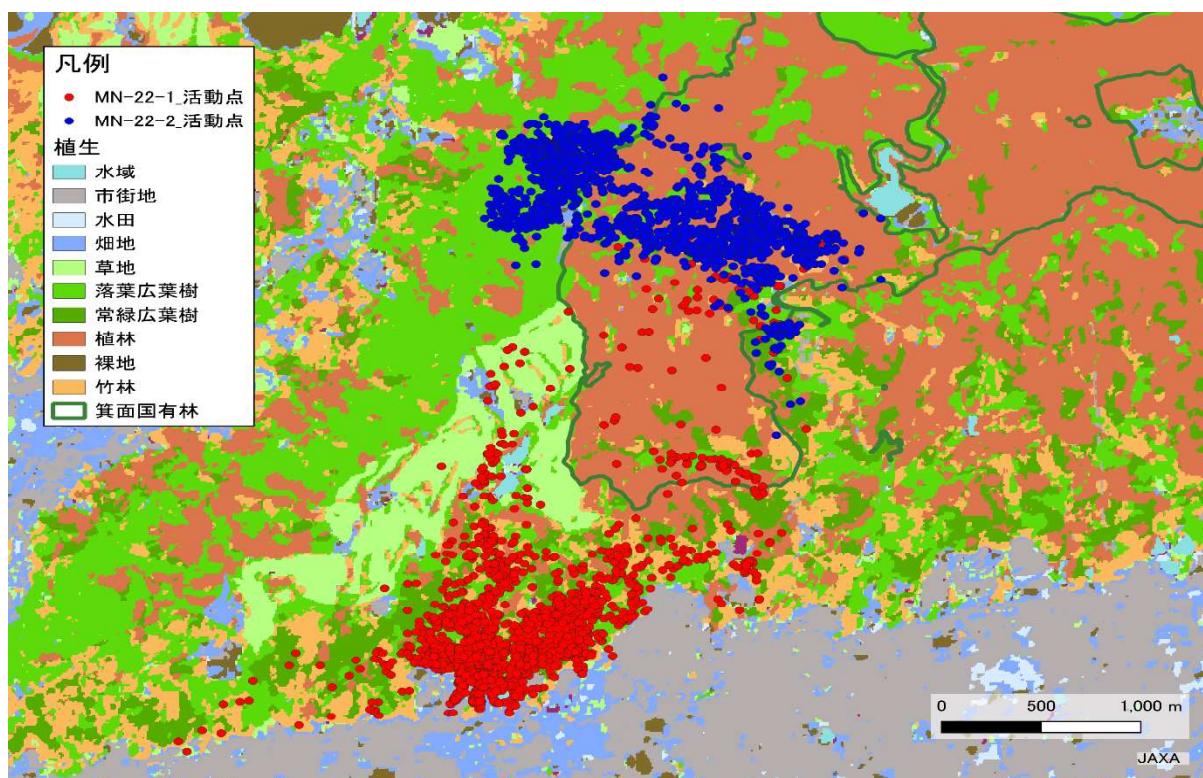
結果

利用点および最外郭法による行動圏は図－3のとおりで、MN-22-1の行動圏面積は5.56 km²と国有林外を多く利用しているのに対し、MN-22-2は2.67 km²と国有林内外をそれぞれ半分程度利用していました。



【写真-8 GPSの装着時の様子】

【図-3 GPSを用いたシカの行動圏の観測結果】



【図-4 シカの行動圏と植生図】

(イ) 糞塊密度調査

箕面国有林の主要な尾根部を左右幅1m(計2m)の範囲で踏査し、10粒以上の糞塊の位置とルート別の個数を調査しました。

結果

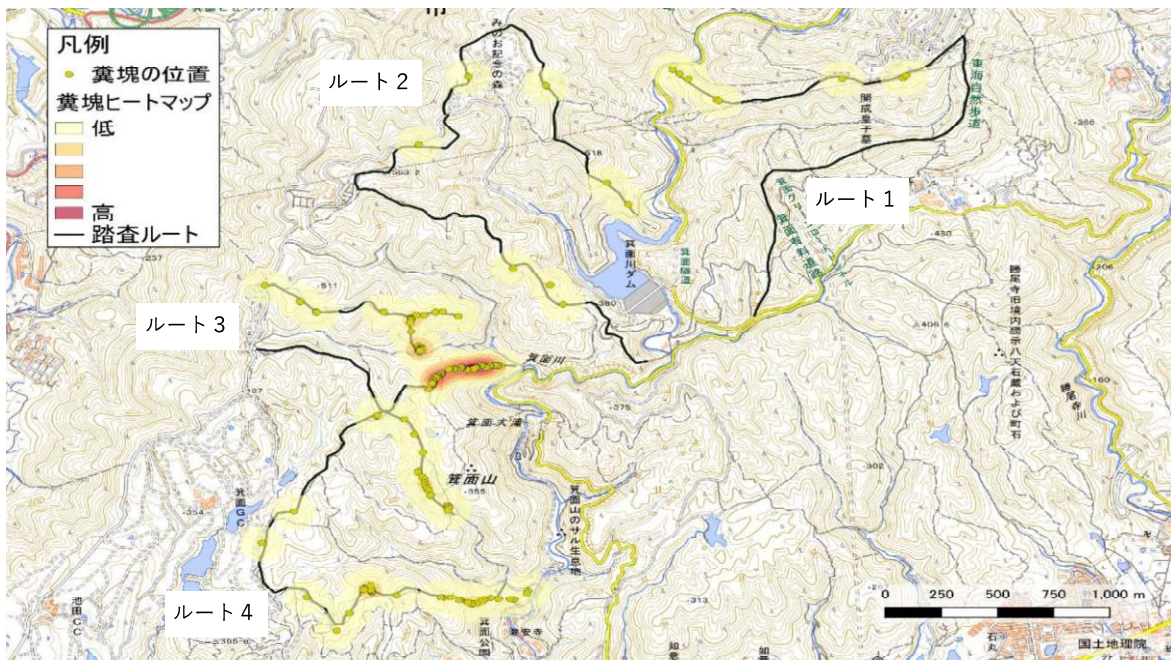
ルート別の確認糞塊位置は図-5のとおりで、今年度から調査を開始したルート4では、16.28個/kmであった。昨年度と比較するとルート1とルート2において減少、ルート3においては増加しており、合計の糞塊は増加していました。

中でもルート3においては、昨年の2倍以上に増加しており、箕面ダム周辺での捕獲が進むにつれ、捕獲が困難な急斜面へのシカの利用の集中が進んでいると考えられます。

調査実施日および踏査距離

ルートNo.	調査実施日	踏査距離 (km)
1	令和6年12月4日	4.81
2	令和6年12月4日	3.79
3	令和6年12月5日	2.73
4	令和6年12月5日	3.44

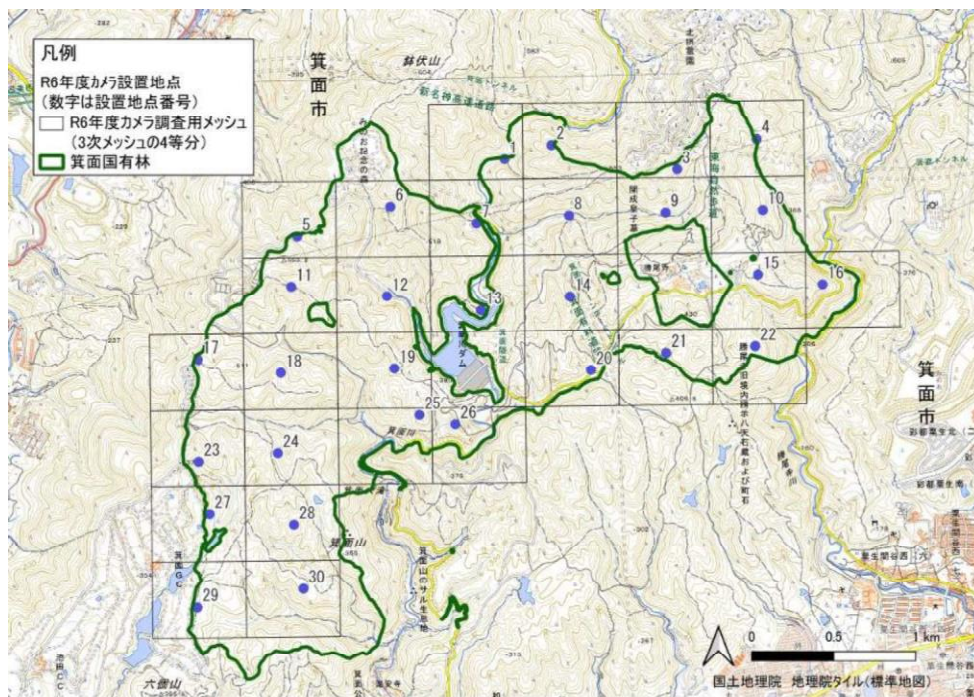
【表-4 調査実施日および踏査距離】



【図-5 ルート別確認糞塊位置図】

(ウ) センサーカメラによる撮影頻度

センサーカメラを30台設置(図-6)し、地点ごとの撮影頻度を比較して、シカの生息密度の濃淡を把握するとともに、平成26年度に実施した同様の調査と比較しました。



【図-6 センサーカメラ設置箇所位置図】

結果

各設置地点における延べ撮影頻度数は表－5 のとおり、撮影地点としては、地点番号 16 と 30 が突出しており、地点番号 16 で、822 頭、地点番号 30 では 442 頭と 2 点の合計撮影頭数で全体の 67%を占めました。

一方で、地点番号 13 ではシカは撮影されませんでした。

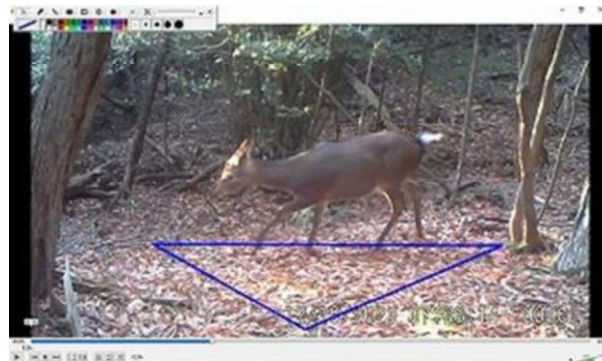
地点番号	シカ	サル	イノシシ	テン	キツネ	タヌキ	アライグマ	アナグマ	ハクビシン	イタチ	リス	不明
1	24		4									1
2	23	2	18		1	2						
3	8		18			3						
4	12		4									1
5	1	2	2									
6	3											
7	18			2	3		1					
8	63	17	11	3	2							3
9	23		4	1		1						1
10	1		4									
11	7	15	6			3						1
12	37	24	11		1							1
13		199	3									1
14	3		3	1	1	1						1
15	4		9									
16	822		42			2	2					1
17	3	25	67			2		1			1	5
18	78	245	21									9
19	22	17	8	1								
20	50	152	2									2
21	31	5	39		4			1				1
22	27		21									5
23	50	1	33		5	1	2	1				2
24	27		16	1								1
25	33	6	14	1						1		1
26	37	5	52			1			1			
27	18		1	9								1
28	2	11	1	1								
29	24		37	5				1				2
30	442	332	6									2
合計	1,893	1,058	457	25	17	16	5	4	1	1	1	42

【表- 5 各設置地点における動物種の延べ撮影頭数（頭）】

(エ) REST モデルを含んだ階層ベイズモデルによる個体数推定

センサーカメラを用い、得られた撮影動画データ（写真－9）から対象動物の個体数密度を推定する REST モデルを応用し、階層ベイズモデルを用いた個体数推定を実施しました。

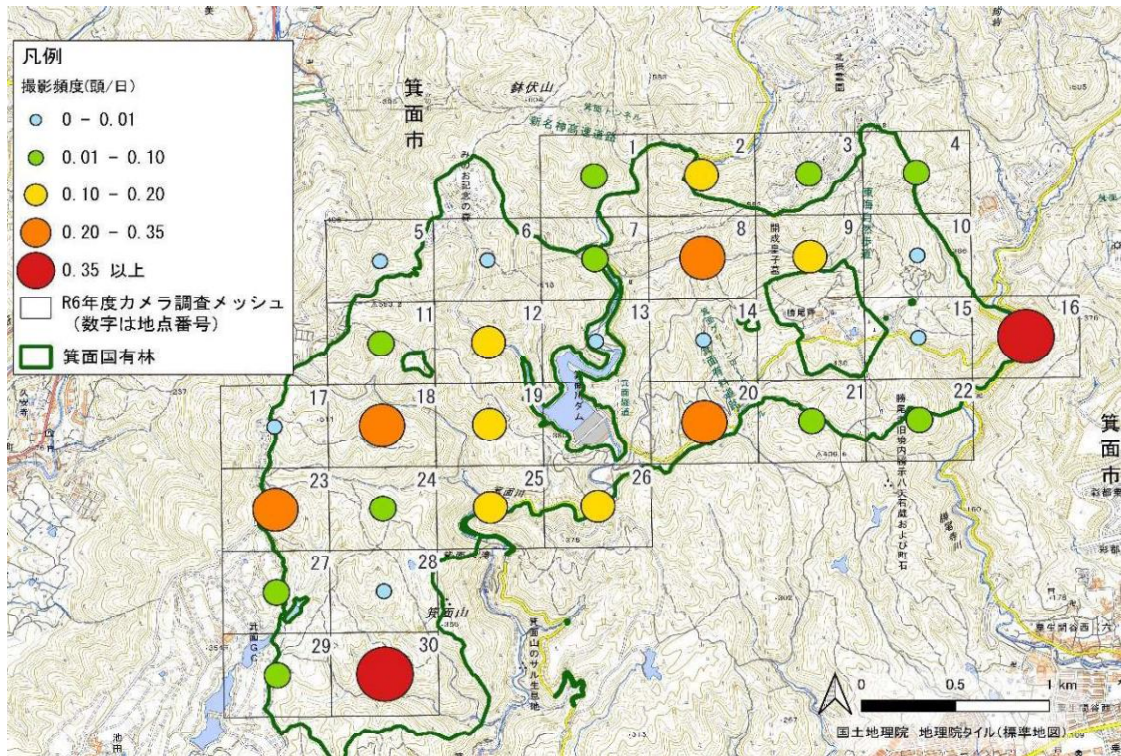
具体的には、カメラ設置時の基準として 3 次メッシュを南北、東西にそれぞれ 2 分割した小メッシュを推定単位としました（図－6 参照）。



【写真-9 撮影動画データ】

結果

図－7 のとおり、生息密度は南西部で高く、北部で低い結果となりました。



【図-7 小メッシュごとの個体検出密度】

(オ) 捕獲情報の整理

捕獲個体数や捕獲効率は、個体群動態把握のための指標の1つになることから、令和4年度から捕獲効率調査を開始しています。

結果

捕獲数は年々増加傾向にあり、令和4年度は100頭、令和5年度も98頭が捕獲されています。ただし、令和6年度は大幅な減少となりました。また、個体数増加抑制効果の大きい成獣メスの捕獲は、令和5年度までの平均で、40.0～65.8%（幼獣を含めた場合は、54.3～75.0%）、令和6年度においては、68%（幼獣含めた場合は、71%）と高い割合を占めています。

捕獲場所は、例年276林班277林班で多数を捕獲していましたが、令和6年度は268林班においても多くの捕獲がありました。

(カ) 箕面国有林におけるニホンジカ個体数管理指針作成に向けたデータの整理

箕面国有林においては、林業被害対策及び植生への影響の低減を目的に平成 26 年度から捕獲を進め、近年では地域の関係団体の調査から北部の清水谷において植生の回復が見られると報告されています。

シカを適正頭数に導くためには、捕獲の効果測定及び被害状況を踏まえた捕獲目標を設定する必要がある、科学的根拠に基づいた個体数管理を実行することが重要です。

このため、今後のモニタリング調査においては、箕面国有林におけるニホンジカ個体数管理指針を作成するためのデータの収集・整理に主眼を置いた調査を実施することとしています。

エ 情報交換会

当センターでは、箕面地域におけるシカの被害防止対策の効率的かつ効果的な取組を推進するため、令和 7 年 2 月 20 日（木）に関係する行政機関・団体との意見交換会を開催しました。交換会には、公益社団法人大阪府猟友会、箕面自然休養林管理運営協議会のメンバー、株式会社野生動物保護管理事務所、京都大阪森林管理事務所から総勢 23 名が出席しました。

主な意見等

- ・今年度の捕獲実績が大幅に減少している要因は何か。対策を要して捕獲に努めるべき。
- ・国土保全は住民の利益にもなるため、シカの正しい知識や対策への理解を得るための啓発活動が必要であると考え、イベントの際に、活動を計画したい。



【写真-10 情報交換会】

1 森林環境教育プログラム

(1) 森の探検隊

「森の探検隊」とは、森の中に 25 箇所程設置されているポイントを 5～7 名の班で巡回し、各ポイントで出題される指令（問題）を班の全員で考え、答えを導き出し、デジタルカメラで気になるものを撮影することにより、森の不思議について楽しく体験しながら学習できる小学生対象の森林環境プログラムです。

体験後は、学校で問題や撮影した写真を自分たちで資料等により調べ、班内でわかり易く新聞のようにまとめることにより、さらに理解を深めることが出来ます。

「森の探検隊」では、子どもたちが学びたいと思うポイントを自分たちで選び、問題に対する答えを導き出すことにより、自主的な学習を促し、問題に組み込まれた、国語・社会・算数・理科・道徳等の学習科目を総合的に学ぶことが出来るようになっています。

令和 6 年度は 11 月 21 日に東能勢小学校の 5 年生 14 名に実施することが出来ました。



【写真-11 「森の探検隊」の様子】



【写真-12 百葉箱のポイント】



【写真-13 近畿大学生の体験】

また、6 月 27 日には近畿大学の学生の皆様に体験して頂き、「大人でも楽しめる内容であり、幅広い世代に森の良さを伝えられる」などの感想を頂きました。

引き続き、教育関係機関と連携を図りながら実施に向けた取り組みを進めていきます。

② 教科書にのっている植物コース

小中学校の教科書に掲載されている植物を実際に見てもらえる「教科書にのっている植物コース」の設定に取り組んでいます。

森林環境教育の専門家からいただいたアドバイスを参考に、看板に掲載されている植物を冊子にまとめた「教科書にのっている！植物図鑑」を作成し、HPに掲載しました。



【図-10 植物図鑑冊子】



【写真-15 看板の設置】



【図-11 エキスポ'90 みのお記念の森マップ】

2 森林環境教育用教材の活用・配布

(1) 創作紙芝居及び絵本を活用した森林環境教育

森林環境教育用教材として、創作紙芝居・絵本『雨水のぼうけん』『もくざいのヒミツ』をHPで公開するとともに、要望のあった団体等には絵本の送付も行っています。

また、手元に絵本が無くとも活用してもらうためにYoutubeに2作品の音声及びBGMをつけた動画も公開しています。

『雨水のぼうけん』については、より多くの方々に活用していただくように英語版も公開しています。

現在、2作品は地域のイベントで使用され、多くの親子連れに好評を得ています。



【図-12 雨水のぼうけん】



【図-13 英語版の雨水のぼうけん】



【写真-16 イベントでの紙芝居】



【写真-17 イベントでの紙芝居】

（２）森林環境教育手引書（小学校編）の活用

森林環境教育を始めてみたい、森林環境教育をしたいがどのようなプログラムをすればいいのかわからないという小学校の教職員の方に向けて作成しているのが森林環境教育手引書（小学校編）です。教科・学年別に多くのプログラムが掲載され、資料用に DVD も付属しており、森林環境教育の実施に必要な資料が一冊にまとめられたものとなっております。

当書は、令和２年度の学習指導要領改訂に伴い、教育関係者による検討委員会により改定が行われ、現在は 2,400 部が全国の教育大学、教育委員会等で活用されています。



【写真-18 手引書を利用した環境教育】



【写真-19 森林環境教育手引書】

3 森林環境教育の実践

(1) 国有林内での教育活動

① 都島中学校「職場体験」

10月31日(火)と、11月1日(水)に箕面国有林において、大阪市立都島中学校の2年生2名の職場体験を行いました。1日目は、エキスポの森において、特定外来生物のウシガエル駆除や貴重な里山の生態系を壊すために設置しているニホンジカの侵入防止柵の修理を体験し、身近な森林と動植物の係わりについて学んでもらいました。2日目は、勝尾寺園地において、立木のはかり方、簡易な機器による面積測量や丸太切り体験を行いました。2名の中学生は、普段目にする事のない森林内の作業に戸惑いながら、林業に係わる職場の体験をしてもらいました。



【写真-20 ニホンジカ侵入防止柵の修理】

② 東能勢小学校「森の探検隊」

11月21日(木)に、豊能町立東能勢小学校5年生16名と「森の探検隊」を実施しました。児童は2班に分かれ、班ごとにマップ係、カメラ係などの役割分担を決めるとともに各班に職員が加わり、「指令書」にある森林の謎に興味を引くヒントを出しながら解いていきました。好奇心旺盛な児童たちは、道端にある草や木への疑問を職員に投げかけ、一緒に楽しむことができました。



【写真-21 森の探検隊の様子】

最後に参加した児童から、「もっといろんなところに行きたかった」、「違うルートに行ってみたかった」、「まだまだ探検し足りない」などの感想があり、森林に対する興味・関心を引き出すことができました。

(1) 出前授業

① YMCA 学院高等学校

12月3日(火)に、大阪市天王寺区にある YMCA 学院高等学校で森林の単元を学習している学生に、森林に関わる仕事の一つとして職業紹介を行いました。YMCA 学院高等学校への職業紹介は毎年行っており、今年度の特別講習では、森林管理署や森林ふれあい推進センターがどのような業務を普段行っているのか、現場作業の1日の流れはどのようなものかなどを紹介しました。学生たちは森林についての知識を専門的に学んでおり、日本の林業を担う人材として、是非とも林業関係の職についていただきたいと感じました。

② 新森小路小学校

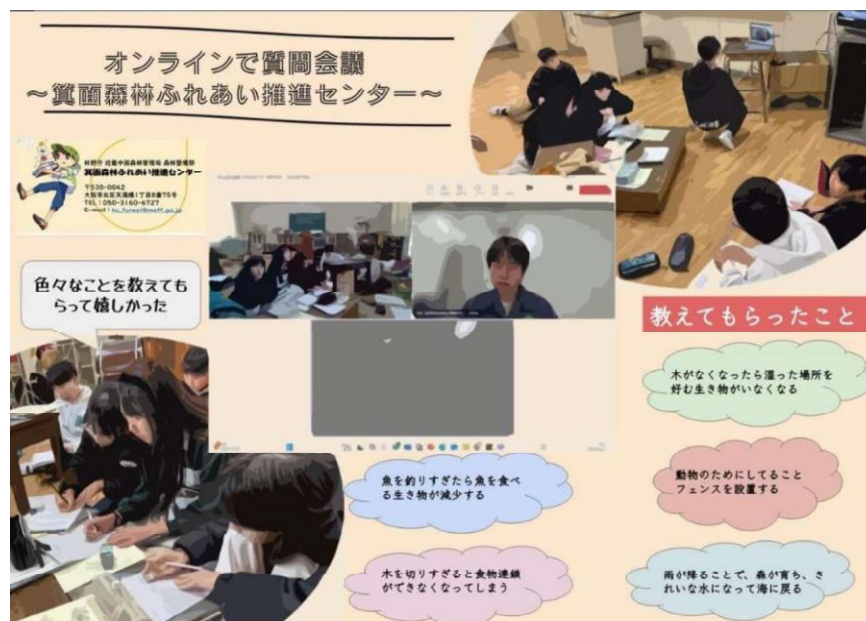
1月31日(金)に、令和5年度に出前授業を行った、新森小路小学校の6年生から、オンラインによる質問を受けました。

同小学校で、SDGs(持続可能な開発目標)について調べる授業があり、海の豊かさや陸の豊かさを守るためには自分たちに何ができるのかを調査することになり、その質問先として当センターが選ばれました。

質問の内容は様々でしたが、「木を切ってから生えるまでどのくらいかかるのか」や、「木を切りつくしたら生き物や環境はどうなるのか」など、自然破壊に関する質問が多かったように感じました。

後日、それぞれの児童たちが取りまとめた調査結果について送付してくださり、小学生ながらもしっかりと調べてあり、驚きました。

調査結果については当センターのホームページで公開しておりますので、是非ご覧ください。



【図-14 オンライン質問会の様子】